

# OLIVE-SPIRIT

関東学院学報 オリーブ・スピリット

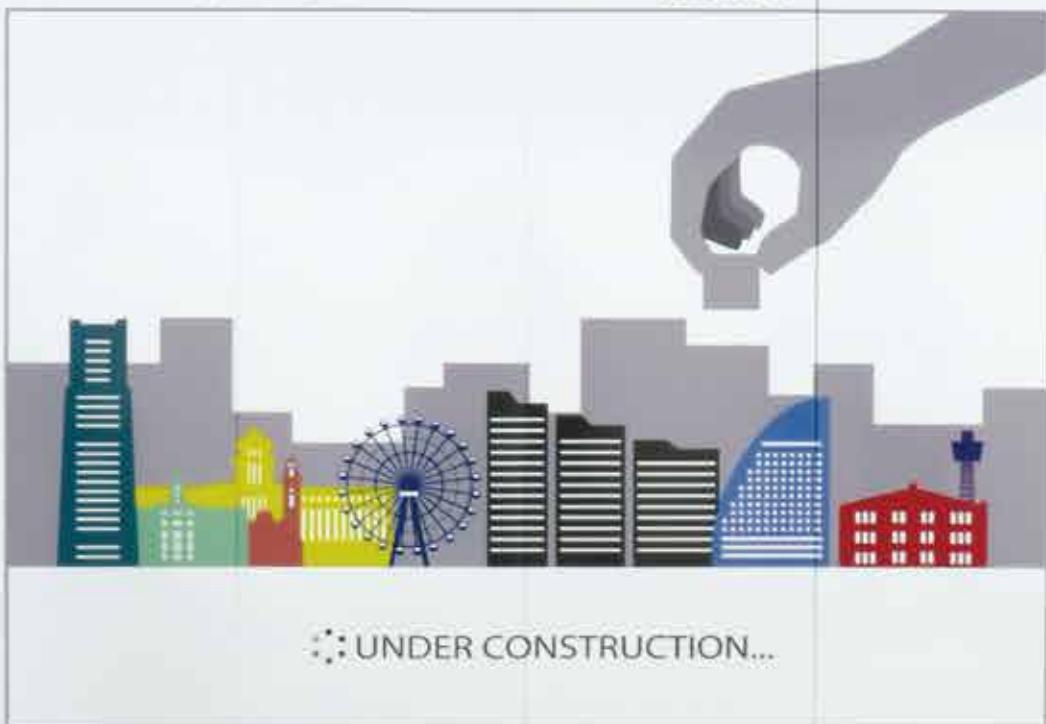
September, 2019

No.

57

大洋建設株式会社50周年記念事業 産学共同プロジェクト  
作者：関東学院大学 人間環境デザイン学科 白石 匠さん

第3回仮囲いデザインコンペ 最優秀賞



構造は、古いものと新しいものが調和するまちです。この特性を未来へ伝承したいという想いから、デザインしました。  
上部の手は、大洋建設を表す手に、まちを構成に象徴して、これから生まれる新しい世代を表しています。

# 国内外の学生が交流する「国際混住寮」と 横浜中心地の歴史を継承する「関内学」

2022年春に横浜・関内キャンパスを開設する関東学院大学。関内と金沢八景、それぞれの拠点において新たなプロジェクトに着手しています。グローバルとローカルが共存する街・横浜で、大学のポテンシャルを最大限に高めていくために、現在取り組む二つのプロジェクトについて規矩大義学長に語っていただきました。

## インター・ナショナル・レジデンス(仮称)

### 国際色豊かな シェアハウス型学生寮

関東学院大学は、新たな学生寮「インター・ナショナル・レジデンス」(仮称)の建設を進めています。海外からの留学生はもちろん、日本人学生も共同で生活する国際混住寮で、2021年の春に開設を予定しています。現在、大学ではキャンパスのグローバル化や多様化を推進しています。外国人留学生の数を増やす一方で、それを日本の学生の成長へつなげるために、日本人学生と留学生が一緒に住みながら学び合える環境があると良いのではないかと、私達は常々考えていました。現在、追浜にも約180室を擁する学生寮がありますが、新たな国際混住寮は約400室と規模を広げるだけでなく、コンセプトも全く異なる寮となります。最大の特徴は、共



多様な交流を促す共用スペース

用スペースの充実です。リビング、キッチン、ブレイルーム、シアタールーム、ワーケースペース、ミーティングルームなどの共用施設を設けることで、学生達が日常的に交流できる環境を実現します。また、個室については、4室を一つのユニットとし、各ユニットに対してバスルームとトイレを2つずつ設置します。

## 連続公開講座「関内学」

### 横浜発展の功労者の思いを 未来へつなぐ

ご案内通り、関東学院大学はJR関内駅前に「横浜・関内キャンパス」の開設を2022年4月に計画しています。その記念事業として企画した連続公開講座「関内学」は、関内の発展に深く関わってきた方をゲスト講師に招き、関内の歴史を振り返るとともに、その文化や街づくりを次世代へと継承することを目的とした公開講座です。学生だけでなく一般の方々も聴講でき、2020年度末まで計8回を予定しています。

関内は、横浜の行政や経済、文化の中心として発展してきた街です。一方で、来年には市庁舎が移転して約6千人の雇用人口がなくなることもあり、今後どんなコンセプトを持つた機関が入ってくるかと街全体が注目しています。そんな中で、関東学院大学がこれまでの関内についてどう考え、何をしていきたいのか。その意志を示さなければ、地域の方々に受け入れていただくことはできないだろうと感じています。また、社会連携教育を標榜する大学として、これから地域に根ざして未来を論じていくためにも、関内の歴史を築いてきた先達の方々の功績をもう一度見つめ直す必要があると考えました。

全8回の関内学では、前半4回で現代の関内の歴史を築いてきた重鎮の方々を講師に招き、その取り組みを通じて関内の歴史を紐解いていきます。そして後半4回ではこれの関内を担う精銳の方々に登壇していました

居住者は寝る時以外は必然的に部屋から外出して生活すること

になり、シェアハウスのようないい環境で、互いの文化への理解やコミュニケーション力を身につけてほしいと考えています。食堂は、敢于て設けないので、

キッチンで様々な国の食文化を日本の学生も体験できたり、生活全体が「学びの場」となることを狙っています。日中は語学堪能なコンシェルジュが常駐し、さらにキャンパス内の食堂での食事サービス、八景



インター・ナショナル・レジデンス(仮称)

・事業主体:空港施設株式会社・総合統括:株式会社学校計画・所在地:横浜市金沢区六浦1-14  
・用途:3~6階:国際混住寮(400名予定)/1~2階:地域貢献スペース・開設予定:2021年春



関東学院大学 学長  
規矩 大義

1993年九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了。  
横浜国立大学助手を経て、官民の防災研究の職場を経験。  
2002年関東学院大学工学部着任。  
2013年12月学長就任。2017年再任(2期目)。専門は地盤防災工学。

異なるコンセプトの寮が揃うことで選択肢も広がります。本学で過ごす時間を有意義なものにしていただるために、多くの人と交流し、学びを深めてほしいと思います。

建物の1階と2階部分は地域貢献スペースとして、地域の方が利用する商業施設等が入る計画です。多くの人々が行き交い、地域の方にも親しまれる環境を目指しています。

グローバルな学びに興味を持つ学生は多いと思いますが、実験・実習の多い学科では海外留学が難しいのも事実です。国際混住寮で生活すれば、日本にいながら異文化体験ができるかもしれませんし、語学力にも増して国際感覚の向上にも役立つでしょう。また、短期で訪れる留学生や研修者そして神奈川県内の学生も入居可能にする予定です。

近年は地方の入学希望者から「できれば寮に入りたい」との声が多く寄せられています。ホテルのように快適で朝晩の食事サービス等も充実した従来の学生寮と、シェアハウスのように様々な国的学生が交わる国際混住寮。

異なるコンセプトの寮が揃うことで選択肢も広がります。本学で過ごす時間を有意義なものにしていただるために、多くの人と交流し、学びを深めてほしいと思います。

関内地区に関東学院大学があることで様々な交流が生まれ、街が自発的に変化していくことになれば理想的ですね。「やっぱり関東学院大学が来てから変わったよね」と地域の皆さんに言つていただけるには、おそらく20年くらいかかるのかもしれません、そうした街づくりが実現できればと思っていました。また、関内での新たなチャレンジは、必ず金沢八景のキャンパスにも波及効果をもたらすはずで、互いのキャンパスが良い意味で競い合いながら大学全体が活性化していくと確信しています。

## 横浜の未来のために一丸となつて 観光と産業を両立する港づくりを



氷川丸と同じ年に  
生まれて

関内の発展に貢献した先人の歩みを知り、次世代の街づくりに継承する公開講座「関内学」(全8回)。初回は5月20日にヨコハマ NEWSバー（横浜メディアビジネスセンター1階）で開催されました。講師は、横浜港を拠点に港湾荷役事業等を展開する藤木企業株式会社の藤木幸夫取締役会長（当時88歳）です。横浜の港湾の歴史とともに歩んできた藤木氏の講演は、終戦後の混乱を経験した少年時代の話から始まりました。

昭和5年（1930年）、この年に生まれたのは、横浜では私と氷川丸です。氷川丸

### 世界一の荷役技術を 誇る横浜港

横浜港は世界でも素晴らしい港です。アジアからアメリカに行く船は、当時3千トンくらい。空っぽの船がまずマニラへ行つて砂糖を積む。次は香港でレアメタルを積む。台湾や上海でもいろいろなものを積んで、九州から瀬戸内海に入ります。瀬戸内海で除虫菊を積み、その後は神戸でおもちゃや家具、大阪でガラス、名古屋で陶器、清水でお茶を積んで、荷物でいっぱいになつた船がいよいよ横浜に入つてきます。そして今まで積んできたドラム缶や袋物、機械、フレコンパックなど、形状の違う荷物を全てきちんと積み付けします。いい加減にやると太平洋の荒波で船が転覆してしまいますが、横浜から出た船は一隻も沈んでいません。洋上でコンテナが崩れかけた船は、針路を変えて横浜にやつて来ます。横浜の人達なら直せるからです。そんな横浜港の先輩達は私の自慢です。そして最後に横浜で生糸を積んでアメリカの港を目指す、これがニューヨーク航路です。

現在つらいのは、一流メーカーの工場が労働力の安い中国や東南アジアに行つてしまつたことです。昔のように原料を輸入し、製品にして、外国へ輸出するというパターンが崩れてしまいました。荷物のない港に船は来ません。だから日本の港は今、全体的に低下しつつあります。

一方で、横浜の港は世界一の荷役技術と運航を今も持っています。そのおかげで最近、横浜に欧州航路が戻つてきました。この定期航路を作ったのに船が12隻必要です。本当に

はとつくの昔に私の許可なく引退しましたが、私は今もこうして皆さんの前で港の話をすることが何よりの喜びです。

昭和20年8月15日に戦争が終わった時、私は中学3年生でした。学校の実習工場が軍需工場になつていて、そこで働いていました。8月18日生まれの私は、あと3日で満15歳でした。15歳の誕生日は、私が待ちに待つてた日です。私の通つていた学校では15歳になると海軍兵学校や陸軍士官学校に志願していました。15歳の誕生日は、私が生まれてきた目的であり、「天皇陛下のために死ぬんだ」という教育を受けてきたのです。だから夢を断たれて悔しかった。これから俺はどうするんだ…。

終戦当時、駅のプラットフォームや改札口には必ず不良少年がいました。そして若い子から金銭ではなく、お弁当を奪うのです。こうした少年時代を経て、私は思つた私は、15歳で妙蓮寺に少年会を作り、一緒に野球をしました。この会長職は今も続けています。こうした少年時代を経て、私は港に入りました。

に大変なことです。そして2万個のコンテナを積む船が入れる港は現在、日本で横浜だけです。他の水深が浅くて入れません。欧洲航路が横浜に来て、私は眠れないくらいわざつた。亡くなつた港の先輩達にやつと合わせる顔ができたと思つています。

### 宿泊者が訪れる観光の港に

横浜市は、山下埠頭の再開発を計画しています。藤木氏が提案するのは、国際展示場や国際見本市を備え、観光と産業を両立する港です。その真意を聽講者に語りました。

現在の横浜の人口は370万人超。その一方で、横浜には老朽化して補修が必要な橋が1600もあるし、子どもや高齢者のための施設にもつとお金回す必要があります。だから横浜はお金稼がないといけません。

私は昭和35年に一人で欧米の港を見て回りました。ニューヨーク、ロンドン、ロッテルダム、ハンブルク、アントワープ…共通点はどの港も観光の場所と貿易経済の場所が分かれています。横浜ではマリンタワーができた時、港の人は皆「港は見世物ではない」と反対しました。大通りでパレードをやると、荷物や労働者が通れず仕事にならなかつたのです。転機が訪れたのは30年前、ベイブリッジができた時です。ベイブリッジの外側は仕事の場所、内側（インナーハーバー）は遊びの場所とはつきり分けることにしたのです。

これから先、横浜はどうするのか。一つはカジノの問題があります。私は最初カジノに賛成する立場でしたが、依存症に関する問題について知りました。依存症の問題を知つてから様々な専門家に話を聞いて、どうあるべきかを考えているところです。

ベイブリッジの内側には山下埠頭がありまます。世界でも山下埠頭ほど条件のいい場所はないでしよう。こんな素晴らしい場所ですから、お客様が何日も泊まるような、観光の港を作りましょう。東京ビッグサイトの国際展示場では、売買契約のために海外から大勢の人々が来て最短でも一週間は滞在します。横浜でもしつかりとした企業体を作つて取り組みたいと思っています。港で仕事をする会社は皆、横浜の「村人」です。「俺の村は俺が良くするんだ」「ここだけは大事にするんだ」というのが村人です。ある意味、トランプ大統領は村人の典型ですね。横浜もこれで行きましょう。

### 「関内学」今後の開講予定

「関内学」は2020年度末まで全8回開講します。9月11日に実施された第2回は、元町発祥の「ハマトラファッション」や「キタムラのバッグ」を全国に広めた株式会社キタムラの北村宏代表取締役社長が登壇し、これからの「関内」のブランドづくりについてお話し下さいました。今後については株式会社萬珍樓の林兼正代表取締役社長の登壇を予定しています。開催日時や参加申し込み(応募多数の場合抽選)については関東学院大学ホームページや神奈川新聞紙面等に随時掲載いたします。

関内学事務局(神奈川新聞社クロスマディア営業局内)  
TEL 045-227-0784(平日10時~17時)  
E-mail kokoku@kanagawa-np.co.jp



藤木企業株式会社 取締役会長

**藤木 幸夫 氏**

1930年横浜生まれ。早稲田大学政経学部卒。  
55年、藤木企業(株)入社、現在同社取締役会長。  
横浜港運協会会长。横浜エフエム放送(株)代表取締役社長。  
横浜港ハーバーリゾート協会会长。

70周年を迎えた関東学院六浦小学校が目指す唯一無二の教育  
設立時の思いを守り続ける伝統教育と  
時代の変化を見据えた教育改革の実践

時代を経て輝きを増す  
独自性あふれる教育



昔の校舎  
1958年6月完成

関東学院六浦小学校が設立されたのは、終戦から4年後の1949年。設立当時の名称は関東学院小学校で、初代校長は坂田祐先生、1年生25名で歩み出しました。それから70年、同校では現在25名の児童が学びます。第10代校長を務めた澤章敏校長にお話をうかがいました。

そして70周年を迎えた今年度、新たな取り組みをスタートさせました。同校の掲げる『のびる』を伸ばす小学校の実現を目指し、1クラス20～25人という少人数でしかできない教育プランです。

「理想とする教育の具現化を目指して改革を進め、全教員で作成したのが『六浦小王牌デル19～23プラン』です。5年計画で、今年度は試行期間とし、再来年度から本格実践していくします」

自ら個性を発見し、伸ばしていく力を育む同プランは、次の3つを柱としています。

- 私のパレット・学習の個性化
- 算数や社会などで、本人の希望によって難易度やテーマの異なる選択型授業を取り入れて「一人ひとりの時間割」を実現します。
- 私のポケット・自己表現の個性化

個人総合中心の授業で、児童自身が自由にテーマを決め、企画書を作り、達成に向かってとことん追究します。目標達成までの期間や発表方法は一人ひとりの自由で、なかには数年かけて達成を目指す児童もいます。

●私のドア・学校生活の個性化



この夏リニューアル  
した図書館（イメージ）



関東学院六浦小学校 校長

澤章敏

横浜市出身。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。  
1990年関東学院六浦中学校・高等学校に社会科教諭として着任。  
2005年から2011年非常勤講師として関東学院大学の教職課程担当。  
2008年関東学院六浦中学校教頭に就任（～2016年）。  
2017年1月より現職。

講演会では、同じく卒業生である衆議院議員の小泉進次郎氏が登場。小泉氏は子ども達の成長と未来への期待を込めて、「日本にいたら日本のこととはわからない」「友達を大切に」「日本は必ず良くなる」という3つのメッセージを伝えました。その後の交流会では、当時の担任教諭が撮影したビデオを観たり、子ども達との質疑応答で大いに盛り上がり、楽しく和やかなひとときを過ごしました。

「授業以外の時間も図書館や家で調べ事をするなど、すでに成果が表れています。今後も改善を行なながら、教員一丸で六浦でしかできない教育を推進していきます」

## キリスト教を根底にした 児童教育をこれからも

社会や他者のために考え、行動できるような人間を育てたいと語る澤校長。根底にあるのはキリスト教であり、これからも変わることはありません。

「先日、ある保護者の方からこんなお話を聞きしました。朝、子どもが登校した後、人身事故で電車がストップしているという交通情報メールが届いたそうです。ちょうど子どもが電車に乗っている時間だったので、心配して、缶詰状態になつていいのではと心配して、非常用の携帯電話に掛けてもなかなかつながらない。30分後にようやくつながった時に

児童教育をこれからも

「授業以外の時間も図書館や家で調べ事をするなど、すでに成果が表れています。今後も改善を行なながら、教員一丸で六浦でしかできない教育を推進していきます」



7周年  
記念礼拝・講演会を開催

割で、学院の中でもキリスト教色の濃い学校だと思います」



| 略年表   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 活動」、5・6年生は週2時間「教科」として英語授業の実施が定められていますが、同校はすでに10年以上前より、英語専科教員と外国人教員の指導のもと、1年生から週2時間の英語授業を行っています。 | 1884年 横浜・山手に横浜バプテスト神学校(第1の源流)創立   |
|   | 1895年 東京・築地に東京中学院(第2の源流)設立        |
|   | 1919年 横浜・三春台に中学関東学院(第3の源流)設立      |
|   | 1949年 関東学院六浦小学校が「関東学院小学校」の名で設立    |
|   | 1952年 関東学院六浦小学校に改名／「自然学校」開始       |
|   | 1956年 学校新聞「子供かんらん」(現こどもかんらん)第1号創刊 |
|   | 1964年 合唱団結成                       |
|   | 1970年 トランペット鼓隊発足                  |
|   | 1996年 サッカークラブ発足                   |
|   | 2015年 学校新聞「こどもかんらん」600号発行         |
|   | 2019年 70周年を迎える／六浦小モデル19-23プラン始動   |

| 略年表   |                             |
|-------|-----------------------------|
| 1884年 | 横浜・山手に横浜バプテスト神学校（第1の源流）創立   |
| 1895年 | 東京・築地に東京中学院（第2の源流）設立        |
| 1919年 | 横浜・三春台に中学関東学院（第3の源流）設立      |
| 1949年 | 関東学院六浦小学校が「関東学院小学校」の名で設立    |
| 1952年 | 関東学院六浦小学校に改名／「自然学校」開始       |
| 1956年 | 学校新聞「子供かんらん」（現こどもかんらん）第1号創刊 |
| 1964年 | 合唱団結成                       |
| 1970年 | トランペット鼓隊発足                  |
| 1996年 | サッカークラブ発足                   |
| 2015年 | 学校新聞「こどもかんらん」600号発行         |
| 2019年 | 70周年を迎える／六浦小モデル19-23プラン始動   |

緑排水システムを軸に快適な生活の実現や資源保全に貢献  
関東学院大学 建築・環境学部の大塚雅之教授  
「日本建築学会賞」論文部門を受賞

関東学院大学初の  
論文部門での受賞

関東学院大学建築・環境学部の大塚雅之教授が、一般社団法人日本建築学会の「2019年日本建築学会賞」(論文部門)を受賞し、5月30日に東京都港区の建築会館ホールで贈呈式が行われました。日本建築学会賞は、国内で最も権威ある建築の賞で、論文・作品・技術・業績の4部門で授与されます。論文部門での受賞は関東学院大学初の快挙です。

大塚教授は大学院修了後、建築設備のコンサルティング会社を経て、1996年に関東学院大学に着任。学生時代から貫して、水環境や給排水衛生設備の研究に取り組み、これまで数々の受賞歴があります。今回の受賞対象は、「長年の研究論文をまとめた「建物内排水システムの排水性能評価と計画・設計手法に関する一連の研究」です。その概要をお聞きしました。

「建物内の排水システムを設計するためには二つの原則があります。一つは、建物の排水



## 学会賞表彰状と4棟の建物が描かれた 古墳時代の鏡「家屋文鏡」を複製した賞牌

後継へのバトンとなる  
4つの研究成果を発表

大塚教授は、設備機器メーカーや建設会社との共同研究に積極的に取り組まれ、その成果は多くの建物で実用化されていま

す。一連の研究を踏まえ、この論文は主に4つのアプローチで構成されています。

一つは、文字通り、排水システムの排水能力の予測手法とそれを用いた把握、そし

て検証です。大学院時代から追究してきたテーマで、関東学院大学着任後は学生とともに精力的に取り組み、2年ほど前に全体像が完成したものです。

ボーザシステム（生ごみ粉碎処理装置）導入に伴う性能評価です。国内初の超高層集合住宅への導入、さらに超高層複合ビル・

企業の依頼により設計検討と性能評価を担当した際の研究成果です。

「給排水設備の研究は、省エネルギーと水資源確保という二つの側面を持つっています。

また、世界の水環境で言えば、東アジアから東南アジア、さらにアフリカなど、いまだ水不足や不衛生な水環境にある地域への展開が考えられます。大学や学部もアジア

とにもなるでしょう。今後どんな国々との交流が出てくるのか、楽しみでもありますね。一方、日本に目を戻せば、震災や集中豪雨などの災害があります。断水時にわざ

かな水量でも流せるトイレや、豪雨に対し、建物内で雨水を一時的に貯水し、時間をずらして放流するシステムなど、国内外の課題に合わせた展開があるのでと感じてい

この研究分野は、今後も大きな可能性があると大塚教授は語ります。だから若い人達にとても期待しているそうです。

「学生には、建物全体の計画・設計をコーディネートする中で、水というものをどう位置付けて、どう快適で安全な水環境を

は建物全体での省エネ設計なども注目されていますし、それは最終的にSDGsにつながります。様々な要素を建物に実装した結果、人の生活がどう変わるのかを考えることは非常にやり甲斐があります。水の問題を核に、他分野も総合的にとらえ、建築・環境をデザインできる学生を輩出すること。それが今の私の教育者としての役目で



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際開発目標です。



企業と二人三脚で歩み  
きらなる研究の実用化へ

A horizontal banner featuring the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs). It includes nine icons with their respective goal numbers and titles: 6. 安全な水とトイレを世界中に (Water and Sanitation), 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに (Energy), 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう (Industry, Innovation, and Infrastructure), 11. 住み続けられるまちづくり (Sustainable Cities and Communities), and 12. つくる責任つかう責任 (Responsible Consumption and Production). Below these are the SDG titles: SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS and 世界を変えるための17の目標 (The 17 Goals for Transforming Our World). The background is white with a blue footer bar.

来20年にわたって様々な共同研究を行つて  
います。先生は民間企業での勤務経験もあ  
るので、考え方が『学』一本ではなく、実  
務経験もあり企業的な『実』の発想で考え  
ていただけますし、非常に信頼するパート  
ナーです」

現在は、製品自体の性能評価だけでなく、  
そのシミュレーション方法の拡張に共同で取  
り組んでいるそうです。大塚研究室のさら  
なる躍進に期待いたします。



関東学院大学 建築・環境学部 学部長  
大塚 雅之

- 1983年東京理科大学理工学部建築学科卒業。
- 1988年同大学院博士課程修了(工博)。
- 1989年株式会社ジェス入社。
- 1996年関東学院大学工学部建築設備工学科着任
- 2015年より建築・環境学部 学部長



# 関東学院六浦こども園「子育て講演会」

様々な分野の専門家を招いて育児に関する情報を地域に発信

## 子どもを中心に親と地域が育ち合う場



関東学院六浦こども園 園長  
根津 美英子

関東学院女子短期大学幼稚教育科卒業後、関東学院大学で非常勤講師、関東学院野庭幼稚園で教諭として務める。2009年より関東学院六浦幼稚園（現：関東学院六浦こども園）園長。

「親育ち」を支援するとともに「子育てしやすい地域づくりを会って成長していく場でありたいと思っています」  
テーマは教育、健康、遊びやアートなど多岐にわたり、幼児教育の第一人者である汐見稔幸先生や人気の絵本作家など、著名な方も講師として来てくださいます。小さなお子さんを連れても参加できるよう、親子席や託児室、映像で視聴できる部屋も用意。ご高齢の方や学生、遠方からの参加者も少なくないそうです。

関東学院六浦こども園では、地域における子育て支援の一環として「子育て講演会」を開催しています。子育てに関する研究をされている専門家や大学の先生を招いた講演会で、どなたも無料で参加でき、現在は年4回実施しています。「子ども園は子どもだけが育つ場所ではありません」と根津美英子園長は言います。

「子育てとは、同時に“親育ち”でもあります。親になつていくことを見守り、応援したいという思いがありますね。もう一つは地域貢献としての意味合いであります。在園児の保護者だけでなく、地域の子育て中の方、あるいは講師やテーマに興味のある方など、大勢に参加していただき、街全体の子育てへの理解を深めていければと考えています」

「保護者の方、教員、そして地域の方が、子どもと出会って成長していく場でありたいと思っています」

7月13日の講演会には97名が参加し、鶴川女子短期大学教授の森真理先生が「街のレッジョ・エミリア市」をテーマにお話し下さいました。レッジョ・エミリア市のレッジョ・エミリア市

の先進的な幼児教育は、六浦こども園も参考にしていて、園庭やアートで個性を伸ばす教育に生かしています。森先生はビデオやスライドを使いながら、街を創っていくのは子ども達であること、子どもの成長におけるアートの重要性などを紹介。根津園長は「これからも子育てに役立つ情報を地域に発信し、一緒に考えていくきっかけになれば」と語ります。

次回は10月9日（水）午前9時半より、早稲田大学人間科学学院健康福祉科学科教授・医学博士の前橋明先生を迎え、「幼児期の運動遊びの意義と役割、安全対策」をテーマに実施します。先生の提唱する運動遊びと子どもの心と身体の健やかな成長についてお話しします。先生の提唱場所は六浦こども園3階・いのりのホールです。参加を希望される方は、六浦こども園までお電話にてご連絡ください（電話045-781-0170）。



鶴川女子短期大学教授の森真理先生

## 「食」を通じて幅広い年齢の子ども達に居場所を提供 地域に必要とされる「こども園を目指す 関東学院のびのびのば園の取り組み



関東学院のびのびのば園 園長  
井上 恵子

明治学院大学文学部卒業後、母校である関東学院中学校高等学校の英語科教諭として着任。2011年NPO法人クオリティワールド理事長を務める。2016年より関東学院のびのびのば園園長。

### 学院内や地域と連携し合う 子ども達を見守るネットワーク

関東学院のびのびのば園では、未就学園児の保育教育の専門施設であるとともに地域の子ども達の居場所を提供するための活動に積極的に取り組んでいます。

その一つが一昨年度から取り組んでいる地域の子ども達に向けた「のびのびの場」です。幼稚園の長期休暇中を中心に年6回ほど開催。小学3年生から高校生を対象に、



地域の小学校や施設と協力してチラシを配布



ランチルームなどを開放し、子ども達が自由に過ごせる場にしています。当日は一人百円で予約なしで参加でき、集まつた子ども達はおいしいランチと一緒に食べたり、カードやボードゲームで遊んで、のびのびと過ごしています。  
関東学院大学の栄養学部の学生がデザート作りや配膳を担当したり、中高生達がボランティアで来てくれるなど、学院内連携も実践。回を重ねるごとに参加児童も増えて30～40人ほどが集まります。井上恵子園長にお話をうかがいました。  
「のびのびのば園では、3年ほど前に教員の中から『地域担当』を置き、地域の情報把握や園の周知活動に努めてきました。そうした中で、地域の方々が一緒に楽しめた機会や子ども達が安心して過ごせる場所をもつと作っていく必要があると感じ、様々な地域貢献に取り組んでいます。

8月には流しそうめんを皆で楽しく食べています」  
「子ども達にも「孤食」が広がっている中、井上園長は皆と一緒に食べることが元気になりました。次回の開催は年末を予定しています。

「子ども達にも「孤食」が広がっている

中、井上園長は皆と一緒に食べる

ことが元気になりました。次回の開催は年

末を予定しています。

「子ども達にも「孤食」が広がっている

中、井上園長は皆と一緒に食べる

ことが元気になりました。次回の開催は年

## 関東学院ネットワーク

関東学院の卒業生が経営に関わっているお店を訪ねるコーナー。  
今回は情熱ある生産者の造ったお酒を扱う酒販店を紹介します。

## ワイン・酒・焼酎 横浜君嶋屋

住所/横浜市南区南吉田町3-30  
☎/045-251-6880  
[営業時間] 10:00 ~ 20:00  
[定休日] 日曜・祝日(不定休)  
[アクセス] 吉野町駅 徒歩3分  
南田駅 徒歩7分  
※その他、都内で銀座君嶋屋(中央区銀座1丁目)と  
恵比寿君嶋屋(アトレ恵比寿西館4階)を展開。



日本ソムリエ協会副会長も務める君嶋哲至社長

## おいしいお酒との出会いと豊かなライフスタイルを提案

横浜君嶋屋は明治25年創業の酒販店です。かつては“角打ち”と呼ばれる立ち飲みの店でしたが、4代目となる君嶋哲至代表取締役社長が業態を大きく転換。日本酒やワインを始め、生産者と直接交流して厳選したお酒を販売しています。横浜君嶋屋がこだわるのは、お酒を中心とした豊かなライフスタイルの提案です。

「フランス料理はワインがあって初めて完結します。世界中どこでも、おいしい料理を食べる時には、いいお酒が必要です。家族や友人と食事を楽しむ豊かな時間を、お酒を通じて感じてもらいたいと思っています」

自ら国内外の生産者のもとに足を運び、造り手の情熱まで見極め、心から人に勧めたいと思うお酒を扱っています。

「うちでは量を売るための酒屋ではありません。食生活やライフスタイルを大切にすると同時に、頑張っている生産者を後押ししたい。だから無名であっても、良い生産者と契約しています」

そのこだわりに、地元のお客様はもちろん、一流レストランやホテルも信頼を寄せています。多忙な日々を送る君嶋さんは、その合間を縫って地域のイベントをプロデュースしたり、さらにはバンドミュージシャンとしての顔も持ち、横浜を中心に定期的にライブ活動を行っています。

「いいお酒や音楽には、自然と人が集まってくれるし、海外の人達とも仲良くなれる。人と人とをつなぐツールです」

そう語る君嶋さんは、中学から高校時

代を三春台の関東学院で過ごしました。現在のバンドメンバーも全員、関東学院の出身です。

「仕事はもちろん、横浜のコミュニティに参加すると、至る所に関東学院の先輩がいます。お会いしたことがなくても応援してくださったり、本当にありがたいですね」

横浜君嶋屋は今後、向かいの倉庫を改装して店舗を拡張し、気軽に飲めるスペースも設ける予定です。

## 広報から

文部科学省は学習指導要領を2020年度より段階的に見直します。新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力・人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育んでいくことを目指しています。また、このような「資質・能力」を育むために、社会と連携・協働した「社会に開かれた教育」の実現が望ましいとも述べています。学習指導要領の見直しの背景には、グローバル化や、スマートフォンの普及、ビッグデータや人工知能(AI)の活用などの技術革新による、10年前では考えられなかったような社会の変化があり、今後もその変化はさらに加速するでしょう。社会の変化が激しく、未来の予測が困難な時代の中で、子ども達には、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待されています。学院各校では、学校、地域、家庭がパートナーとして連携・協働し、地域全体で子ども達の学びを展開することで、子ども達だけでなく、大人もともに学び合い、育ち合う教育体制を構築しています。また、大学では、2022年4月に横浜・関内キャンパスを新設。新キャンパスを拠点に、地域・企業・自治体と連携しながら街全体をキャンパスとした「社会連携教育」を推進していきます。そして、4年間の学びを通して「社会と人の幸福に貢献する人」を目指した教育・研究の向上を図っていきます。これからも変わわり続ける関東学院の挑戦にご期待ください。

関東学院大学 広報課 (045) 786-7049 / kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

・編集：関東学院大学 広報課

・写真：藤間 久子、森 日出夫（アマノスタジオ）

・文章：坂尾 基子

・デザイン：高橋 稔、竹本 真実（株式会社CCN）



大桑美輝さんは、2013年に開設された関東学院大学看護学部の第1期生です。現在、横浜市の中枢病院として急性期医療や高度専門医療を提供する「済生会横浜市東部病院」の脳神経センターに勤務しています。

「主に脳卒中の患者さんの急性期から慢性期にかけて、オペ前後のケアをしたり、リハビリに携わっています。一日に数人を受け持ちはますが、中には入院から退院まで一貫してケアを担当する患者さんもあります」

小学生の時に図書館でナイチンゲールの伝記を借りて読み、看護師に興味を持ったと言う大桑さん。本気で目指そうと決めたのは高校生の時です。

「祖母が認知症を患いました。でも、その時の私には何もできなくて…。病気になると、家族の生活も変わってしまいます。いろいろな病気を持った人や、家族のために、人として何か関わったらと思つて看護師を目指しました」

実家は静岡県浜松市。親元を離れて一人暮らしをしながら看護学部で学びました。「一期生で先輩がいなかつたので、どんな授業や実習があるのか全くわからず、入る前は正直、不安もありました。でも、先生方がとても熱心で、同期とも一緒に看護師になろうと言つて頑張だったので、関東学院で本当に良かったと思います」

大学の実習で脳疾患の言語障害がある患者さんを担当した時、手振りや表情で会話をしてくれたことが強く心に残り、脳神経系の病棟を志望しました。

「脳疾患は、特に急性期では迅速な対応が必要です。難しさもある一方、自分でアンテナを張つて吸収しながら学べる職場なので、やり甲斐を感じます。転院や自宅退院、社会復帰など患者さんによって目指すゴールは違いますが、様々な思いを汲み取つて、一人ひとりの目指す先を考えたケアを大切にしたいと思っています」

もともと人と話すことが好きな大桑さんは、患者さんとの会話が仕事の活力になります。患者さんとの会話が仕事の活力になります。

『今日お相撲さんやつてるね』など、たわいもない会話でも、すごく元気をもらえる気がします。この病棟はご高齢の方が多く、自分の祖父母と話しているようで楽しいです」

看護師になつて3年目。大桑さんはこれからも横浜で看護師を続けるつもりです。「両親は静岡に帰ってきてほしいという思いもあつたと思いますが、一番やりたいことをやりなさいと、私の気持ちを尊重してくれました。それに応えるためにも、横浜で地域の方のために頑張つていきたいと思います」



## 済生会横浜市東部病院 脳神経センター 看護師

おおくわ みき

**大桑 美輝さん**

静岡県・聖隸クリストファー高等学校出身。  
2013年関東学院大学看護学部入学(第1期生)。  
2017年卒業後、横浜市鶴見区の済生会横浜市東部病院「脳神経センター」勤務。

## 医療現場で活躍する関東学院大学 看護学部1期生 患者や家族に寄り添い地域医療に貢献

## お知らせ

## 学生アイデアの「金沢区オリジナルラーメン」を 大学の食堂で販売します！

関東学院大学の新たなチャレンジがスタートします。

経営学部の学生アイデアをもとに金沢区オリジナルラーメン

「海香る 金沢海苔のりラーメン」を横浜・金沢八景キャンパス3号館食堂ローズで販売します。

“金沢区のオリジナルラーメン”を作るという本企画は、

京急電鉄が京急沿線エリアの自治体や企業と行われた「異業種意見交換会」で、

「横浜かなざわエリア」の冬季の活性化策として企画され、経営学部の学生が、

「K-biz」プロジェクトの一環として、オリジナルラーメン企画のコンペを行い、選出された企画案が商品化されました。

第1弾は金沢区内のラーメン店「麺屋庄太」で販売され、今回は第2弾として「関東学院大学」食堂で販売。

この商品は、関東学院大学食堂部（株式会社関学サービス）が、約半年間の試作を重ね独自で開発。

金沢区で採れた海苔やアナゴをトッピングし、ご飯と薬味（6種類から3種類を選択）もセットになっており、ラーメンを食べた後にスープや薬味を入れてお茶漬けも楽しめるラーメンとなっています。

### 海香る 金沢海苔のりラーメン

- 販売期間：2019年12月9日（月）～12月13日（金）

- 販売場所：横浜・金沢八景キャンパス3号館

食堂ローズ 10:00～19:00

- 販売価格：1,000円（大学生は500円）

